

学際研究プロジェクト創成へのアプローチ

セッション趣旨 URAとして何ができるのか？

学際研究プロジェクト創成にむけた‘方法論’や‘課題’の意見交換を通して「URAの役割」について、皆で考える

● 我々が抱える課題 自然災害, 地球温暖化, エネルギー問題, 少子高齢化など

● 学際的視点の必要性

一つの既存の学問分野では解決が困難な課題に対して, 学問横断的に知を集結することで, 新たな概念, 観点, 発想, 手法, 技術等が生まれる可能性がある。

● 学際研究の事例

社会的課題: 水俣病事件に関する医学, 社会科学の学際的研究「水俣学」

学問的発展: 遺伝子工学, 蛋白科学, 構造科学, 計算化学分野からなる「構造生物学」

将来を見据えた課題: 「宇宙空間のガバナンス設計」のための, 国際法, 文化人類学, 社会学, 惑星科学, 宇宙物理学, 宇宙工学等の分野横断研究

● 学際研究創成をとりまく課題

従来の研究環境では, 学際研究はかならずしも十分に進展していないのでは?
分野毎の研究文化の違い? 十分な研究資金はあるのか?

学際研究プロジェクト創成のスキーム

課題設定

参加者 探し

プロジェクト 形成

●トップダウン

- 政策課題
- 社会課題
- 大学の方針
- 外部資金獲得

●ボトムアップ

- 研究者の要望
- 研究者の研究発展

●能動的に探す

- 研究者情報の収集
- 学外情報の収集
- 参加者へのアプローチ

●受動的に集める

- 集まる場の形成
- インセンティブ等学内制度設計

●議論のファシリテート

●実際のテーマ設定

●研究者間の調整

●参加者の役割分担

●参加者の合意形成

あらゆるアプローチがありURAの役割は多岐にわたる

本セッションの構成

目的

- ・3大学の取組の紹介を通して、お悩み解決のヒントや課題を提供する
- ・‘課題’や‘方法論’の意見交換を通して「URAの役割」について考える

● 講演（各発表12分＋質疑応答3分）

トピックス1. 学際研究や異分野横断研究創成の「場」の提供の紹介

1. 藤井弘樹氏（電気通信大学）

「UECコミュニケーションサロンの紹介」

2. 王鴻香氏（長崎大学）

「長崎大学頭脳交流ミーティング」

トピックス2. 学際研究プロジェクトの創生に向けた学内支援制度の紹介

3. 白井哲哉氏（京都大学）

「学際研究プロジェクトの創生に向けた
学内支援制度の紹介」

● パネルディスカッション（40分）

1. 異分野交流の場(機会)をつくるにあたっての
難しさ(課題)について
2. 異分野交流から学際融合研究をたちあげる際に
必要となるURAの役目について
課題設定? 金策? マッチングの仕組みづくり? 推進体制は?